

令和6年度第2回ISO上層委員会報告会

第124回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会
中川 梓

ISO Council (理事会)

◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

◆ 理事会メンバー機関

グループ1

AFNOR(仏)(2026)
ANSI (米)(2026)
BSI(英) (2024)
DIN(独) (2026)
JISC(日)(2025)
SAC(中) (2025)

グループ2

BIS(インド) (2024)
SA(オーストラリア) (2024)
ABNT(ブラジル) (2025)
UNI(イタリア) (2025)
KATS (韓国)(2026)

グループ3

DSM(マレーシア) (2024)
TSE(トルコ)(2024)
EOS(エジプト)(2025)
SASO(サウジアラビア) (2026)
SSC (シンガポール)(2026)

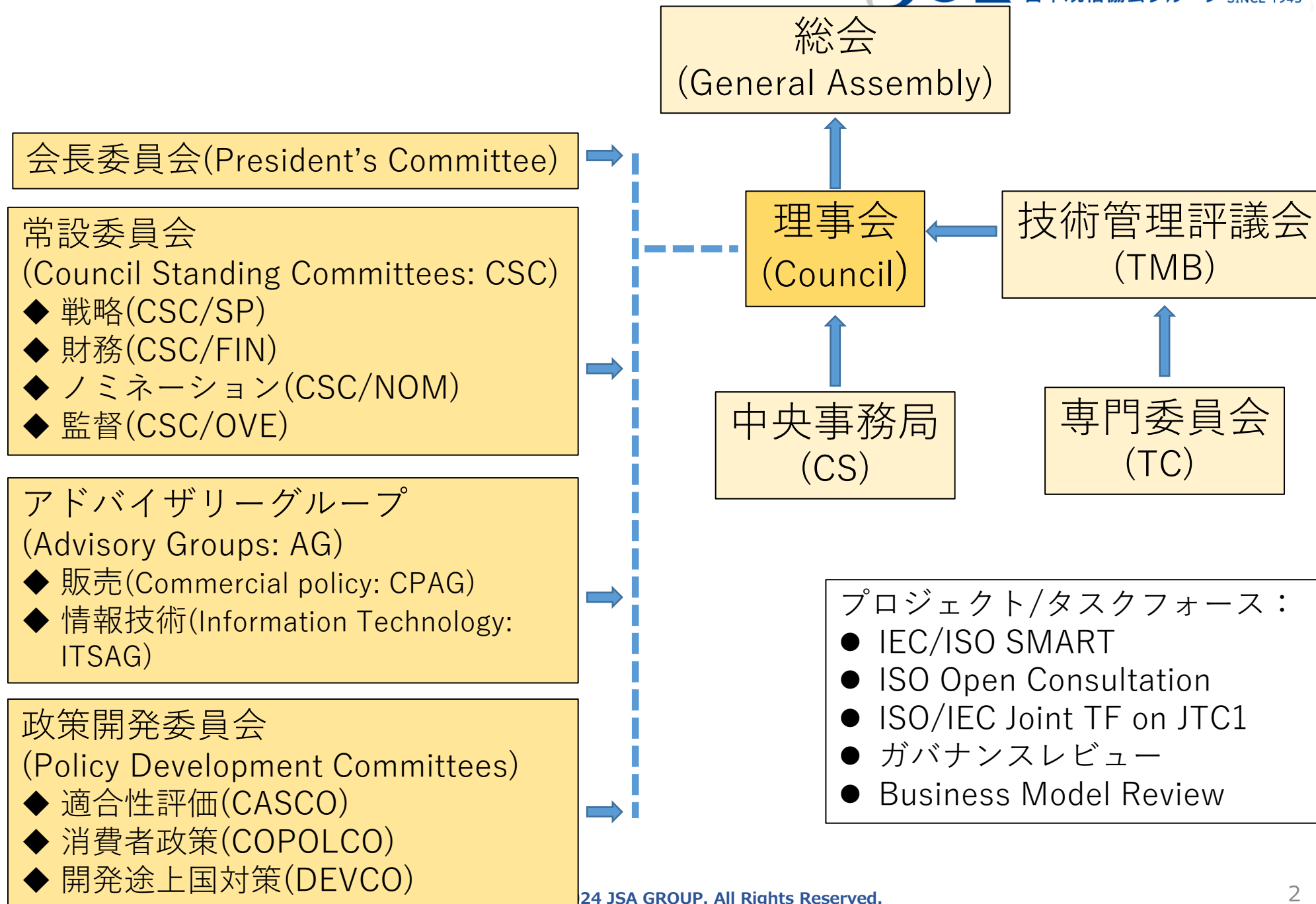
グループ4

KEBS(ケニア) (2024)
INTECO(コスタリカ) (2025)
INNORPI(チュニジア)(2026)
BBSQ(バングラ) (2026)

ISO Council (理事会)



標準化で、世界をつなげる。
JSA GROUP
日本規格協会グループ SINCE 1945



第124回 ISO理事会 及び 関連会合

2024年6月3日	
10:30-13:00	会長委員会
14:00-15:00	CSC/NOM
15:30-17:30	ガバナンスWG
2024年6月4日	
09:00-16:00	CSC/SP
09:00-16:00	CSC/FIN
17:00-18:00	CSC/OVE

2024年6月5日	
08:00-15:45	理事会
16:00-18:00	ビジネスモデル見直しTF
2024年6月6日	
09:00-15:00	理事会
15:30-17:30	State of Green

- 理事会及び関連委員会の会議が、2024年6月3日から6日にかけて、対面で開催された
- 議事を重要/緊急（カテゴリB）とその他の項目(カテゴリA) に区分け。カテゴリAは事前資料配布のみで説明を行わない
- 本資料では、理事会での主な議論、重要事項をご報告する

第124回ISO理事会 議題

3	ISO戦略2030の実施 2024年Q1報告 i)実施計画 ii)測定枠組み	13	ISO気候アクション
		13.1	ISO気候アクション進捗報告
4	IEC/ISO SMART規格 進捗報告	13.2	戦略的パートナーシップ進捗報告
5	TMB推奨（食品放射線量測定基準パイロット終了）	14	ガバナンス関連トピック
		14.1	ガバナンスレビュー進捗
6	ISO会員データ保護方針の見直し	14.2	ガバナンス職の選挙キャンペーンに関する推奨
7	POCOSA附属書7&8見直し	15	2024年総会進捗
8	123回理事会議事録	16	COPOLCO議長選挙
9	総会/前回理事会決議のフォローアップ	17	2023年会計簿の締め
10	WSC会議報告	18	2025年ISO/CS予算及び2026-2027年の財政計画
11	理事会選挙のランキング基準	19	2025年ISO会費
12	ビジネスモデル見直しTFの進捗報告	20	欧州司法裁判所判決最新情報
2	事務総長報告	21	その他
	Awareness session on TMB	21.1	2025年総会の日程
		21.2	メンバーの格上げ（ザンビア）
		21.3	ガバナンス職推薦状況
		21.4	次回理事会の議題

議題2～事務総長報告

<主な報告事項>

■ 社会情勢

- AIの経済的影響、一方で社会的な負の影響への懸念も
- SDGsの進捗：15%が順調に進捗しているのみ

■ ISO戦略2030

戦略実施の成功のカギ：「ガバナンスレビュー」、「ビジネスモデル」、「ISOメンバー」

- 規格及び規格開発の将来
- 持続可能性
- AI

■ 運営状況

- 財務状況、技術活動（technical activities）など
- ITインシデント報告

■ 主な活動

- メンバーとのコミュニケーション、地域グループの会合等への参加
- 他の国際組織との関係強化/交流：IEC、ITU、その他

我々の展望 Our vision

Making lives easier, safer and better
生活をより楽に、より安全に、より良く

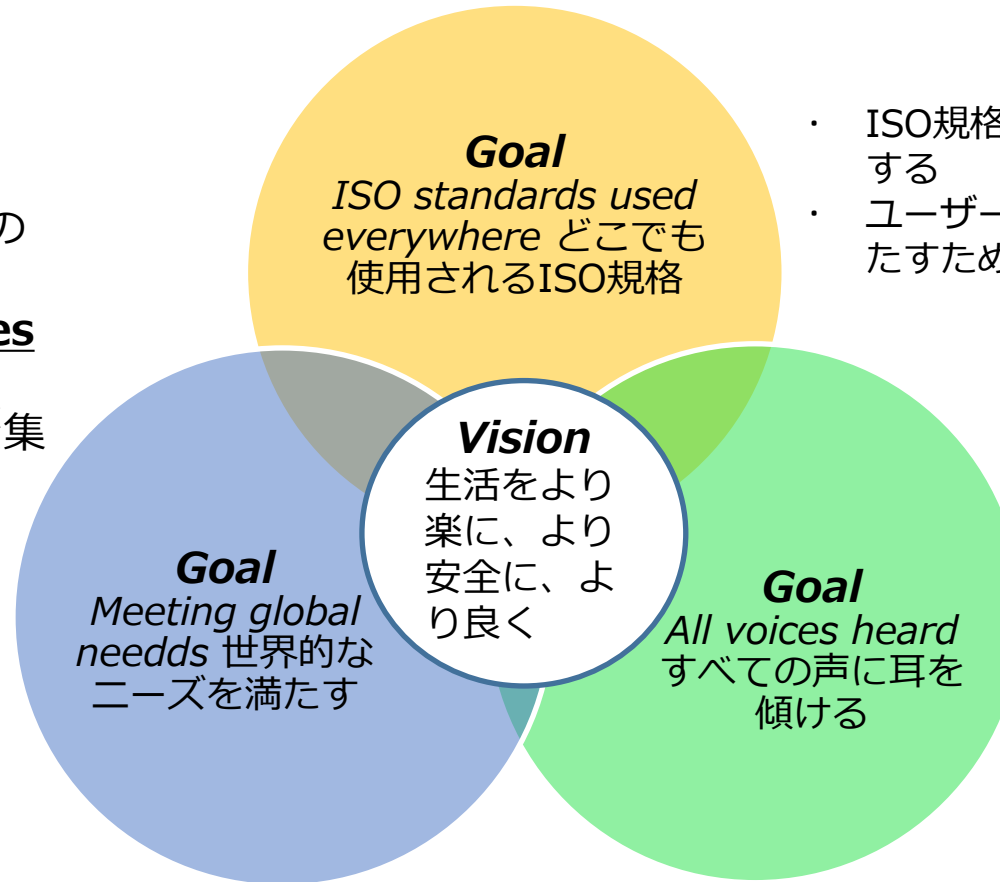
◆ 我々のゴール Our goals

展望（Vision）達成のための3つのゴール

◆ 我々の優先事項 Our priorities

6つの優先事項。ゴールを達成し、影響力を最大にするため、資源を集中

- ・ 市場で必要な時にISO規格を提供する
- ・ 国際標準化の将来の機会を捉える
- ・ ISO規格を通じ環境持続可能性を推進する



- ・ ISO規格の便益を実証する
- ・ ユーザーのニーズを満たすために革新する

- ・ 能力開発を通じてISO会員を強化する
- ・ ISOシステム内の包含性、多様性を向上させる

<https://www.iso.org/publication/PUB100364.html>

https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_5150.pdf

ISO Standards Used Everywhere		
Benefits of Standards		
Research Projects -Societal impacts of standards -Standards and regulations -International Standards and International Agreements	Research Frameworks (TBD)	Education -EaS Materials' Repository -EaS Network
Digital Evolution		
IEC/ISO SMART	Online Standards Development (OSD)	New technologies and AI for existing solutions (TBD)
Meeting Global Needs		
Future Challenges & Market Needs		
ISO Open Consultation and pilot	Foresight Framework	Actionability of New topics for TCs (TBD)

Meeting Global Needs

Future Challenges & Market Needs

ISO Open Consultation and pilot	Foresight Framework	Actionability of New topics for TCs (TBD)
---------------------------------	---------------------	---

Improved Development Processes

Committee strategy management	Optimize deliverables	
-------------------------------	-----------------------	--

Environmental Action

Climate action	Biodiversity (TBD)	Plastic pollution (TBD)
----------------	--------------------	-------------------------

All Voices Heard

Supporting ISO Members

ISOlutions evolution	Commercial support	
----------------------	--------------------	--

Diversity and Inclusion

Gender Action Plan 2022-2025	Young Professionals	Stakeholders' participation in standard development
------------------------------	---------------------	---

Language barrier (TBD)		
------------------------	--	--

議題2～事務総長報告

◆ 規格及び規格開発の将来

- ISOオープンコンサルテーションプロジェクト
 - パイロットに3件提案あり
- Online Standards Development (OSD)
- IEC/ISO SMART
 - IEC/ISOの協働：1 team, 1 operation, 1 governance

◆ 持続可能性（サステナビリティ）

- 気候対応のフェーズ2へ

◆ AI

- 戦略フレームワーク策定
- AI利用に関するガイドライン作成中
- 国際的な動きに関与、ISOのポジショニング

議題2～事務総長報告

技術活動

■ 委員会／ワーキンググループの活動

- 新規プロジェクトの承認：22%増加（2023年Q1比）
- 平均開発時間：4%減（32.2か月）（2023年Q1：33.5か月）

■ 会合

- 対面／ハイブリッド会議：全体の17%（2023年Q1：14%）
 - ・ 対面会議105、ハイブリッド175、バーチャル1340

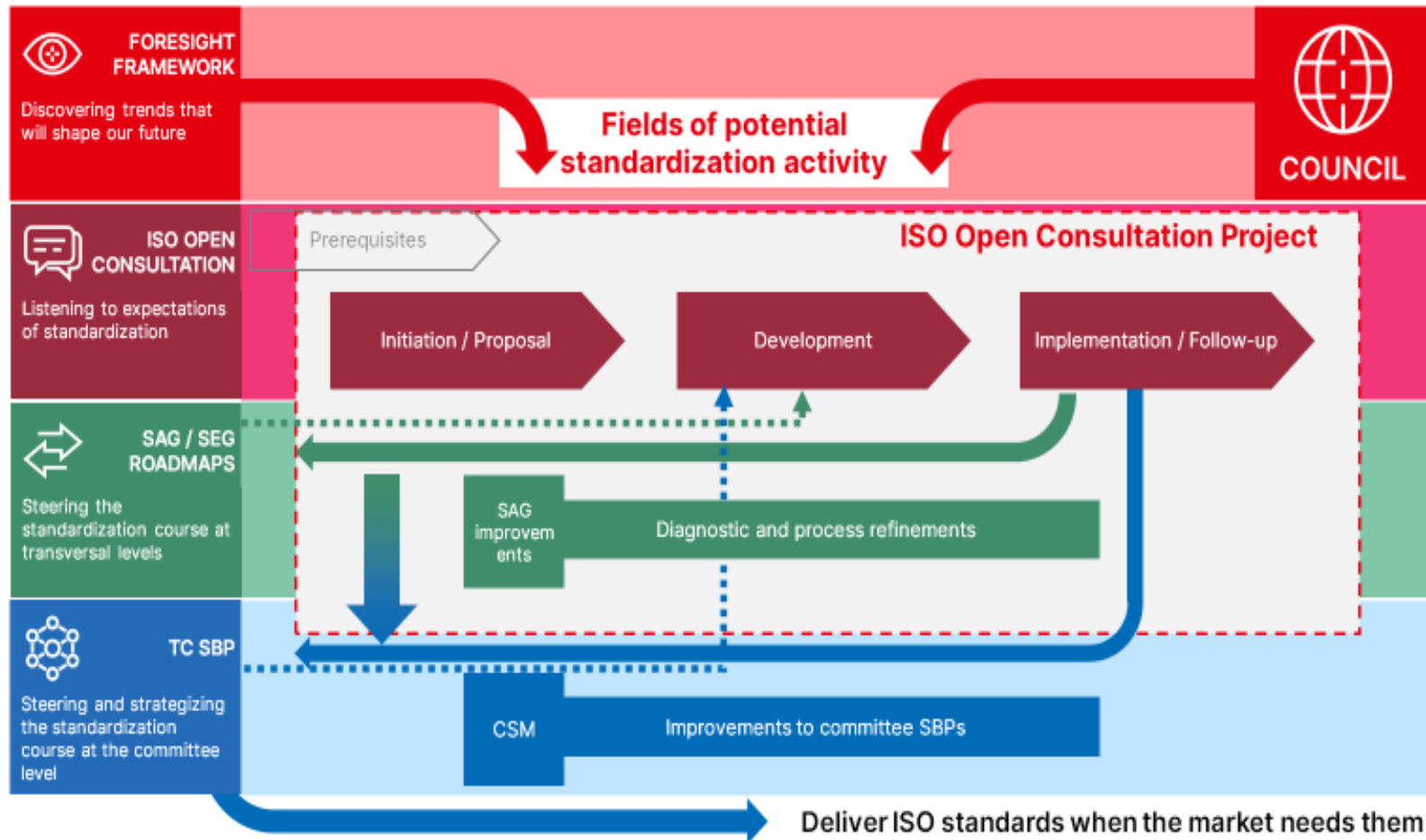
ITインシデント

■ 5/20発生

- サイバーアタックがあったが封じ込めに成功、ビジネスシステムやデータへのアクセス/ダメージはなし

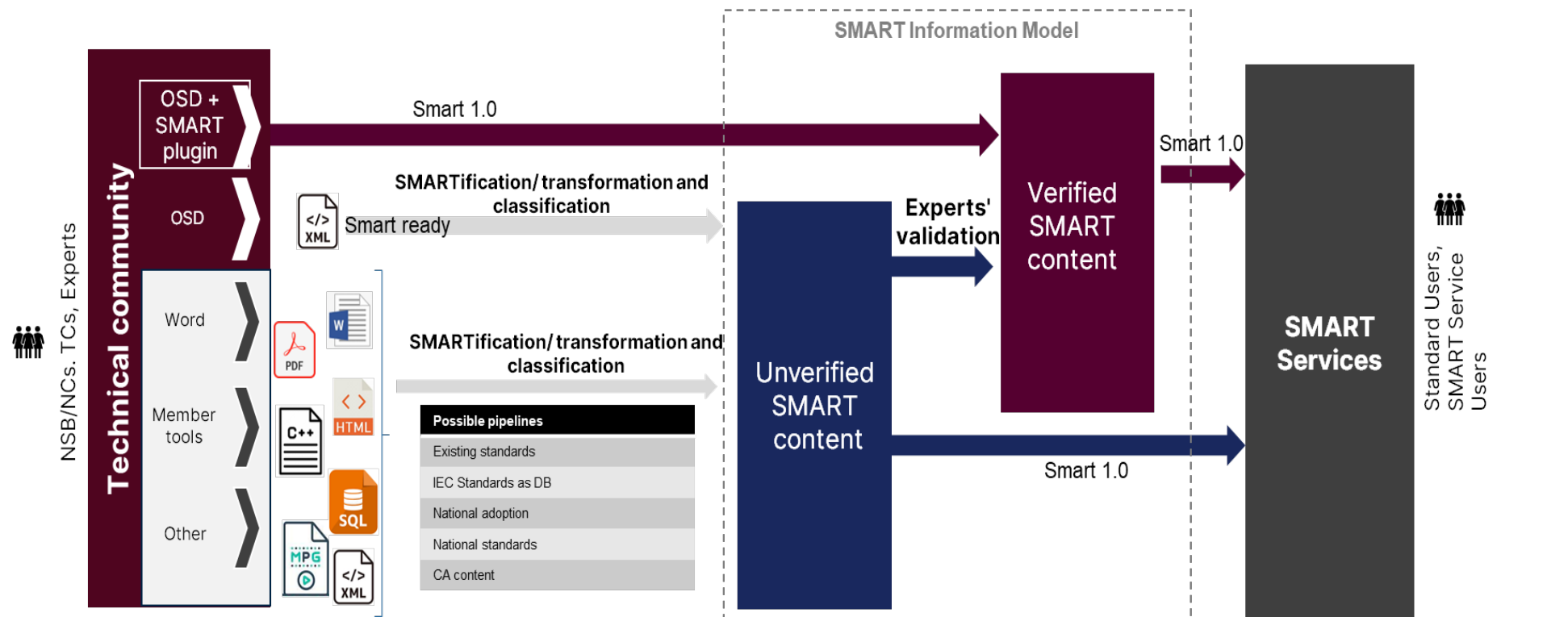


ISO Open Consultation Project



議題4～IEC/ISO SMART

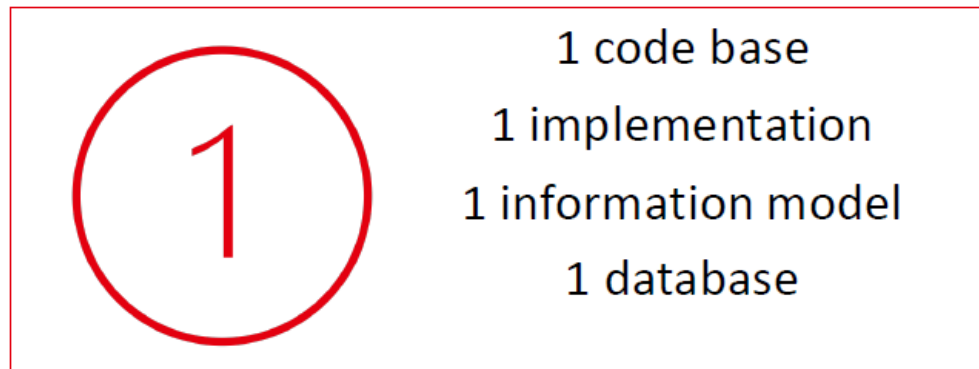
Possibilities for End-to-End Concept



議題4～IEC/ISO SMART

ISO-IEC collaboration

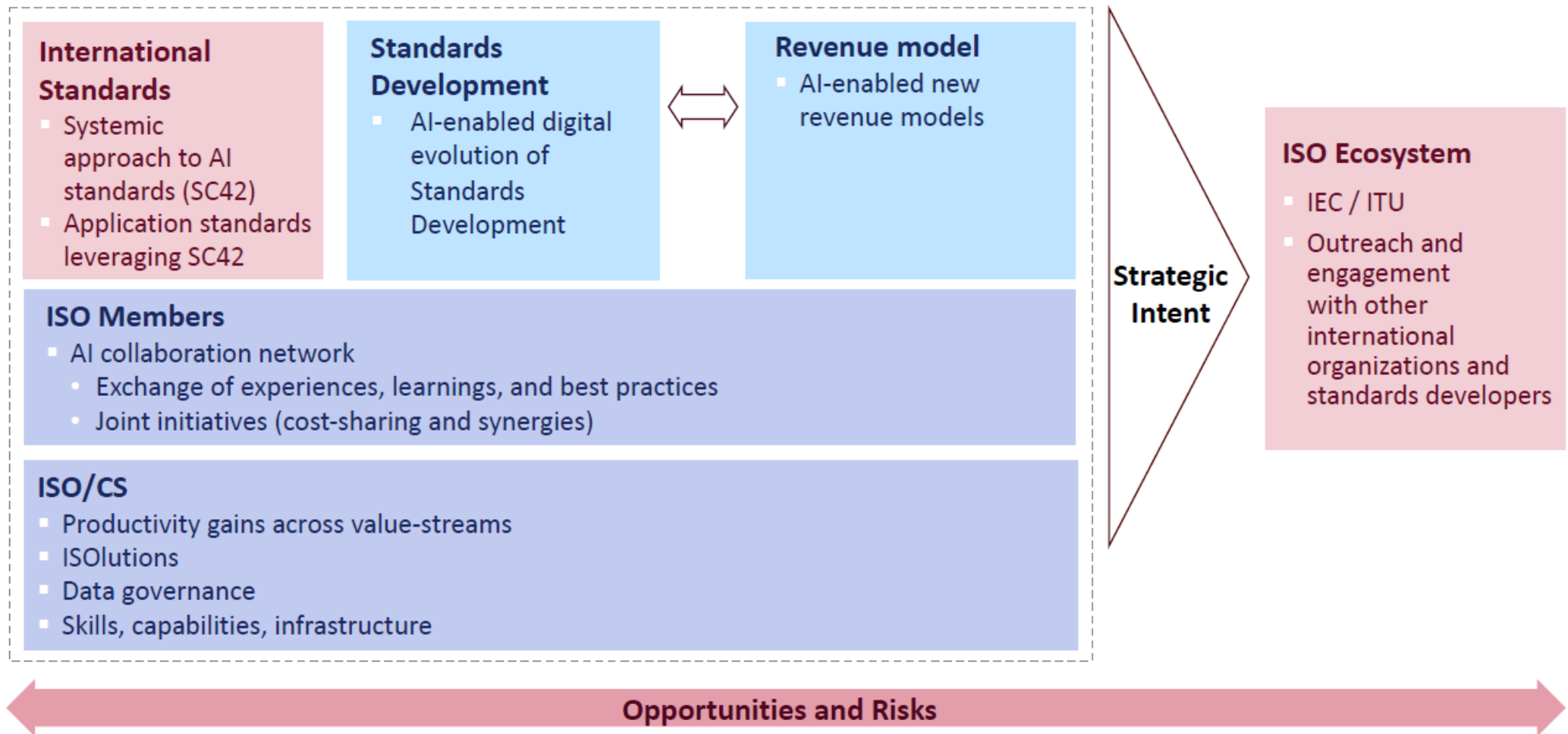
ISO and IEC are aiming at achieving SMART together, 1 time



ISO/IEC interoperability will evolve into 1 SMART framework which enables membership involvement and interoperability



ISO AI Strategic Framework



議題13.1～ 気候対策の進捗

<これまでの経緯>

- 2021年総会で「ロンドン宣言」、それを受け「気候アクション」を展開
- 2つのフェーズで取組み
 - フェーズ1（2022～2023年）
 - ⇒ 気候変動分野でのISOのポジショニング上げ
 - ⇒ 3つを優先分野：「規格開発」、「戦略的パートナーシップ」、「メンバーの巻き込みとコミュニケーション(認知とブランディング)」
 - フェーズ2（2024～2025年）
 - ⇒ 気候変動に対処する国際規格のグローバルプラットフォームとしての立ち位置を固め、システムティックに取り組む
 - ⇒ ISOネットゼロ

議題13.1～ 気候対策の進捗

<フェーズ1の主な進捗>

■ 規格開発

- 600以上の規格を気候対策に関連するとしてマッピング、優先規格を81特定（エネルギー、運輸、建設分野）。気候科学のアドバイザーを雇い、規格改訂を支援
- 49マネジメントシステム規格への気候配慮の組み込み
- ネットゼロガイドライン（IWA42）

■ メンバーの巻き込みとコミュニケーション

- 気候チャンピオンネットワーク:49のNSBから85名のチャンピオンが参加

■ サステナビリティ戦略的パートナーシップの構築

- COP27及び28等へ参加

<フェーズ2>:2024-2025

- 気候科学の規格開発へのシステマティックな組み込み
- タイムリーに対応できるように制度的なメカニズムをもつ
- 戦略的パートナーシップ強化
- ISOネットゼロ検討開始（カーボンフットプリントの測定と削減開始）

議題13.2～持続可能性に関する戦略的パートナーシップ

<背景、経緯>

- 持続可能性に関連する団体との戦略的パートナーシップ構築に向け、事務総長が取り組む（決議9/2023:2023年2月）
- パートナーシップの目的：国際規格を活用し、個々の能力を超えて影響を増幅するような協力関係を通じて、気候変動対策と持続可能性への取り組みを強化する

<主な進捗>

- UNFCCC
 - COP29への参加、「Standards Pavillion」開設準備中
 - Initiator : ISO及びIEC
 - Partner (co-sponsor) : WBCSC、GRI、ITU、PEFC、OIML、Verra
- IPCC
 - 協働の可能性に関し議論中
 - オブザーバー資格申請

議題13.2～持続可能性に関する戦略的パートナーシップ

<主な進捗>

■ WBCSD

- COP29でパートナー(co-sponsor)
- グローバルサーキュラリティプロトコル（GCP）イニシアティブなどでの協働

■ GHGプロトコル

- ISO規格との整合に協力する意向

■ GRI

- IWA48及びCOP29 への参加に合意

■ IFRS／ISSB

- COP29のパビリオン参加辞退

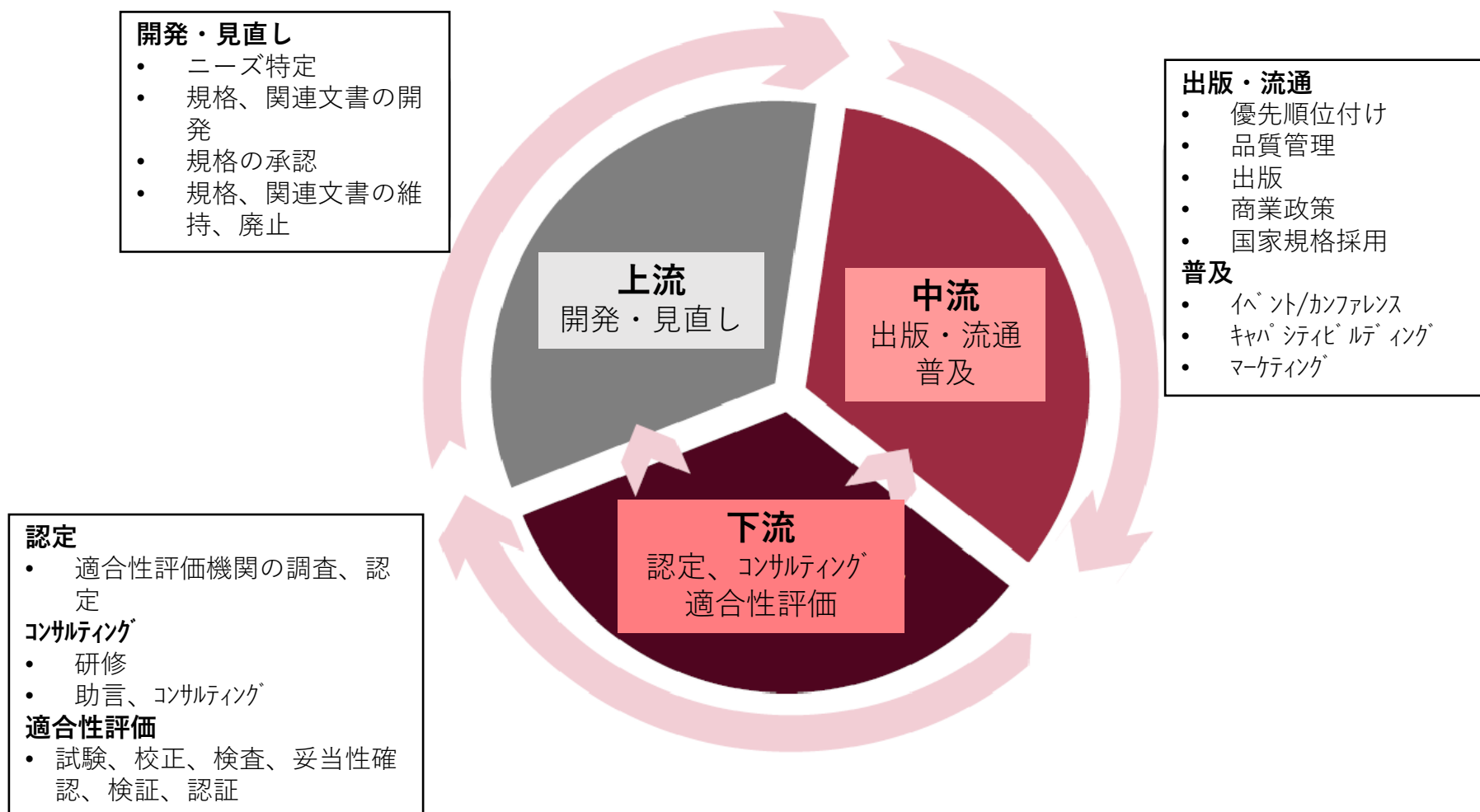
■ UNDP

- ダブルロゴのジョイント規格発行のための合意を締結予定
- SDGsマネジメントに関するガイドライン（PAS）の発行(2024年7月)、SDGsMS規格の開発を予定
- サステナビリティ情報開示/管理ハブのパイロットに参加（6か国）

<経緯>

- CSC/FINが長期的な観点でビジネスモデルの見直しを行うことを決定（2023年6月）
- 理事会ワークショップを開催（2024年2月）
 - ISOメンバーの3つの類型
 1. 政府系組織、規格の出版・販売
 2. 民間組織、収益は主に適合性評価や研修から
 3. 民間組織、収益は主に規格の出版・販売から
 - ISO/CSの機能の4つの要素
 1. convenor: ISOファミリーの牽引
 2. shaper: 標準化アジェンダの推進
 3. supporter: メンバー支援
 4. service provider: 規格開発/販売のツール、インフラ提供
- ビジネスモデルタスクフォース（BMTF）設置を決定（2024年2月）

ISOのバリューチェーン



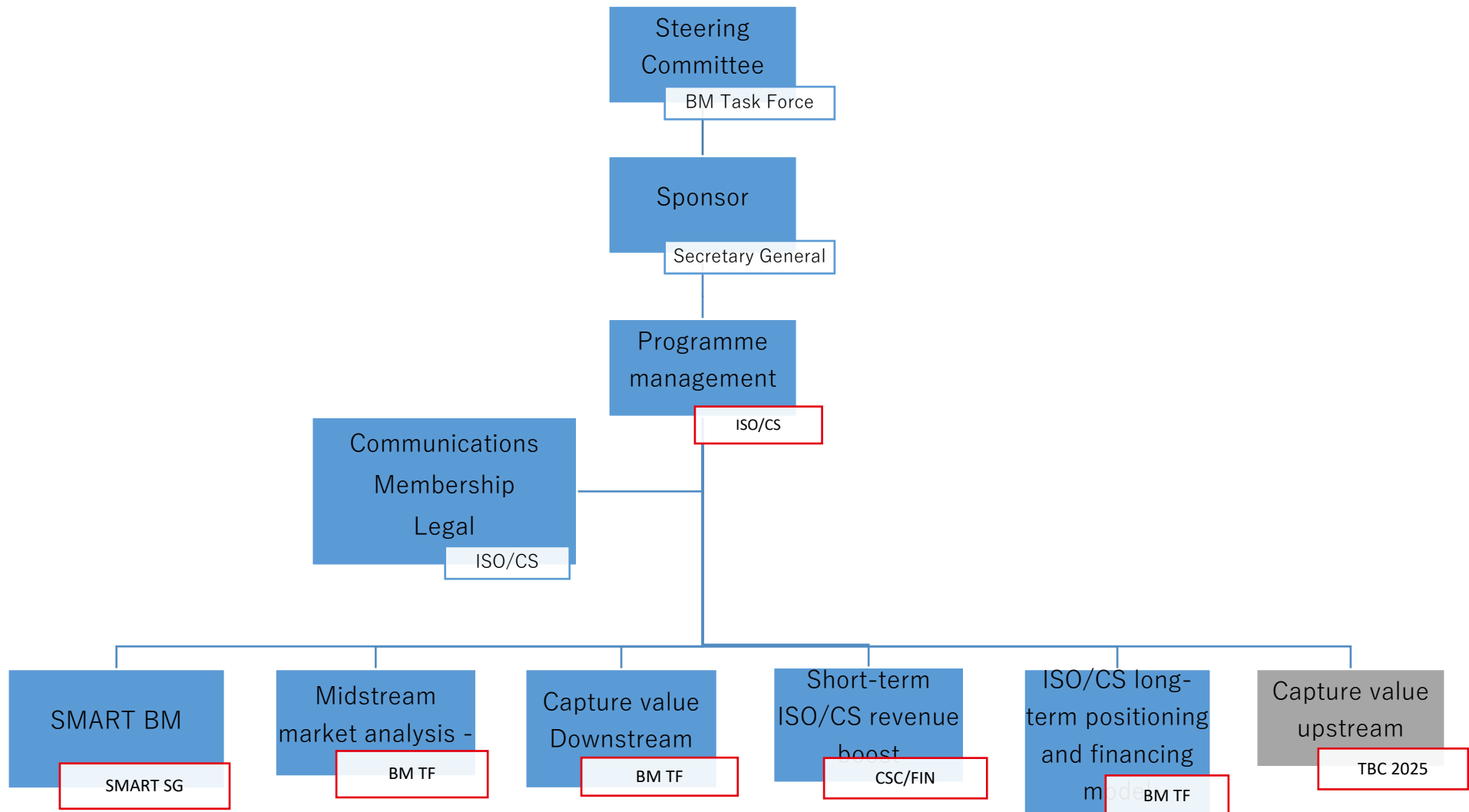
議題12～ビジネスモデルの見直しTFの進捗

＜これまでの進捗、今後の活動＞

- 5つのワークパッケージ（WP1～5）を設定
 - ISOシステムのビジネスモデル：SMART、中流、下流
 - ISO/CSのビジネスモデル：短期的な資金
- ISOメンバー向けにオンラインセッション開催（5月）
- ISO総会2024でセッションを実施

WP1	SMARTビジネスモデル	SMART-SG
WP2	中流：市場分析 - ISOメンバー及びCSの規格販売を増加させる何かはあるか	BMTF
WP3	下流：価値をとらえる - Downstreamの活動を精査 - ISOメンバー及びCSにとって新たな収入源はあるか？	BMTF
WP4	短期的収益増加 - 2026-2027年に対する対応策	CSC/FIN
WP5	長期的なCSのポジショニング及びビジネスモデル - サポーター、サービスプロバイダーとしての機能の強化？	BMTF
WPX	上流：価値をとらえる	未定

ビジネスモデルの見直し



議題14.1～ ガバナンスレビュー

<これまでの経緯>

- CSC/OVEの下にガバナンスレビューを実施するためにWGを設置（2024年2月）
 - 前ISO会長が特別アドバイザーとして参加
 - 2階層で実施
 - 2024：理事会のdiversityや有効性、利害抵触、Quick wins
 - 2025：ISOのガバナンス構造 理事会-TMB-TCの関係、政策開発委員会

<主な進捗>

- Quick wins：すぐに対応できる9項目の提案（規定等の修正や明確化など）
- Diversityに関する提案
 - Diversity matrixを作り選挙時の参考に共有
 - 任期：長い経験や知識に価値があるとし、Gr1は制限なし、Gr2-4は再任可とする
 - 財政的支援
- 理事会-TMB-TCの関係
 - Awareness session on TMB

議題20～欧州司法裁判所の判決

<背景>

- Malamud (Public.Resource.Org)のケース
 - ECに整合規格4件の無料化を要求したが拒否され、訴訟→敗訴するも控訴（2021年）
- 判決（2024年3月）：4件の規格のフリーアクセスを命じる内容
 - 「整合規格はEU法の一部で法的効力がある」、「公共の利益が優先される」という考え方に基づく
 - 著作権には触れていない

<現状>

- 600程度の規格に影響すると考えられるが、フリーアクセスの提供の詳細は未定
- IECと足並みをそろえて対応する。ISO/IECで直接ECとやりとりする
- 本件の影響は欧州のメンバーだけに留まらない
- CEN/CENELCのはcentralizedではない形（各国での対応）をする予定だが、先行きは未定

議題17～2023年会計報告

	2023年実績	2023年予測	予測との差異		2022年実績	2022年実績との差異	
総収入	47,348	49,223	-1,875	-4%	43,388	3,960	9%
総支出	-46,730	-48,883	-2,153	-4%	-40,989	5,741	14%
営業黒字	618	340	278	82%	2,399	-1,781	-74%
財務収益	1,021	172	849	494%	-2,740	3,761	-137%
剰余	1,639	512	1,127	220%	-341	1,980	-581%

- CSの販売が低調
- CSウェブストアの売上のうち13.4%は、ISO/IEC 27001, 27002, 27005
- ロイヤリティによる収入は前年より増加（10%）、米国、デンマーク、ドイツなどの好調及び規格の値上げによる
- 支出は予算比4%減で、営業黒字kCHF618
- 会計締め承認
(決議33/2024)

議題18～2025年ISO/CS予算のレビュー

	2025年予算	2024年予測	24年予測との差異		2023年実績	24年予測との差異	
会費	22,482	22,384	173	0.4%	21,359	1,025	5%
royalties & sales	25,025	22,769	2,256	9.9%	20,418	2,351	12%
サービス	1,255	1,244	11	0.9%	1,151	93	8%
基金による活動	4,745	6,177	-1,372	-22.4%	4,420	1,697	38%
総収入	53,507	52,514	993	1.9%	47,348	5,166	11%
人件費	33,472	33,375	97	0.3%	31,155	2,220	7%
ITS費	4,407	4,212	195	4.6%	3,671	541	15%
その他	8,028	8,539	-511	-6.0%	7,484	1,055	14%
基金による活動	4,745	6,177	-1,372	-22.4%	4,420	1,697	38%
総支出	50,652	-52,243	-1,591	-3.0%	46,730	5,513	12%
営業黒字	2,855	271	2,584	953.5%	618	-347	-56%
財務収益	290	206	84	40.8%	1,021	-815	-80%
剰余	3,145	477	2,688	559.3%	1,639	-1,162	-71%

議題18～2025年ISO/CS予算のレビュー

<主な内容>

2025年予算

- 経費は2024年予測よりkCHF406マイナス（約7100万円）
 - 営業収益（会費、売上/ロイヤリティ、その他）は2024年予測より5%増のkCHF 48800（約85億6000万円）（価格引上げ2.5%などによるロイヤリティ収入増加、売上7%増加見込み）
 - 営業黒字はkCHF 2885（約5億円）
 - 基金による活動（キャパシティビルディング及び戦略実施）：kCHF4745(約8億3300万円)
 - キャパシティビルディング kCHF 2212（3億8800万円）
 - 戦略実施 kCHF 2533（4億4500万）
- （決議34/2024）

2026-2027年計画（見込み）

- 価格引上げ2.5%などによるロイヤリティ増、売上増
- 支出人件費増（4名増/年など）、ITコスト増

議題19～2025年ISO会費（ユニット単価）

<背景>

- 年会費は、ユニット単価×割当てられたユニット数
- ユニット単価は毎年、ユニット数は3年毎に総会が承認。ISO Formulaに基づき、会員国の経済力を加味し、ユニット単価とユニット数を算定
- 2024-2026年のユニット数は4,539
- 2024年のユニット単価は4,675CHF (2022年以降同額)

<主な内容、結果>

- ユニット単価は2015年から8.6%減（5,118→4,675）。メンバー数は増加したが（119→125）、会費収入は一定水準(約kCHF21,000)
- 2025年のユニット単価を2024年の4,675CHFのままとし、ユニット総数も2024年の4,809のまま
- 上記のユニット単価に対し、総会の承認を求めることとする
(決議35/2024)
- JISCに割当てられているユニット数は341。4,675x341=1,594,175

議題15～2024年ISO総会

- 2024年9月9日～13日@カルタヘナ（コロンビア）
 - 登録開始：5/7～(メンバー)
 - 非メンバーのオンライン参加募集（7月頃～）
 - スポンサー募集中
 - ISO 20121 の運用

- 総会テーマ～Breaking boundaries
 - 3つの柱
 - sustainable and inclusive growth
 - responsive AI for all
 - the future of human capital
 - ワークショップ/テーマセッション19、ガバナンスセッション15

- 選挙
 - ISO会長（2026年～）

ご参考～今後の予定

<理事会>

- 2024年9月 カルタヘナ(コロンビア)
- 2025年2月 ジュネーブ (スイス)
- 2025年6月 サンホセ (コスタリカ)

<総会>

- 2024年9月9日-13日 カルタヘナ(コロンビア)
- 2025年10月6日-10月10日 キガリ (ルワンダ)
- 2026年9月28日-10月2日 パリ (フランス)

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会
システム系・国際規格開発ユニット

kokusai@jsa.or.jp